

# 令和3年産雑豆の収穫量と令和4年産雑豆の作付指標面積について

(公財)日本豆類協会

## 1. 令和3年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、令和4年2月28日付けで「令和3年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介する。

### (1) 小豆（乾燥子実）

#### ①作付面積

全国の作付面積は2万3,300haで、前年産に比べ3,300ha(12%)減少した。このうち、主産地である北海道の作付面積は1万9,000haで、他作物への転換等により、前年産に比べ3,100ha(14%)減少した。

#### ②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は181kgで、作柄の悪かった前年産をさらに7%下回った。

これは、主産地である北海道において、7月の高温・少雨の影響により、着さや数が少なかったこと等による。なお、10a当たり平均収量対比は、84%となった。

#### ③収穫量

全国の収穫量は4万2,200tで、前年産に比べ9,700t(19%)減少した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の93%を占めている。

### (2) いんげん（乾燥子実）

#### ①作付面積

全国の作付面積は7,130haで、前年産に比べ240ha(3%)減少した。このうち、主産地である北海道の作付面積は6,660haで、他作物への転換等によ

り、前年産に比べ220ha（3%）減少した。

### ②10a当たり収量

全国の10 a 当たり収量は101kgで、前年産を51%上回った。これは、主産地である北海道において、7月の高温・少雨の影響により、着さや数が少なく、未熟粒が多かったものの、特に作柄の悪かった前年産の10 a 当たり収量を上回ったためである。なお、10 a 当たり平均収量対比は、59%となった。

### ③収穫量

全国の収穫量は7,200 tで、前年産に比べ 2,280 t（46%）増加した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

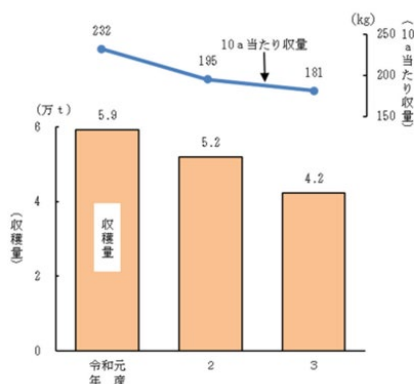


図2 令和3年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

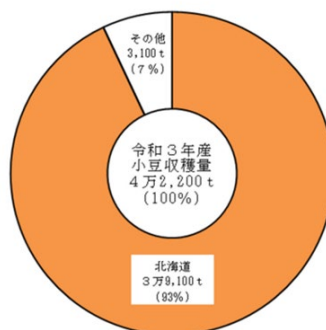


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

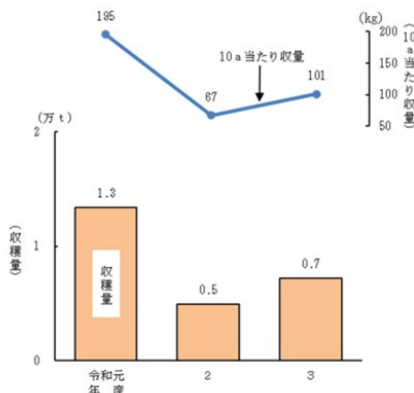


図4 令和3年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

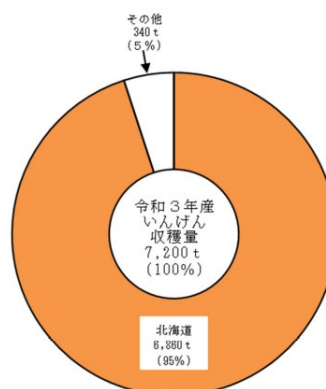


表1 令和3年産小豆(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

全国 農業地域 都道府県	作付 面積 (ha)	10a 当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比(%)	10a 当たり 平均収量 (kg)
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)		
全国	23,300	181	42,200	△3,300	88	93	△9,700	81	84	215
北海道	19,000	206	39,100	△3,100	86	94	△9,500	80	83	247
滋賀	189	108	204	△2	99	106	9	105	146	74
京都	458	79	362	7	102	136	100	138	152	52
兵庫	754	69	520	△53	93	86	△126	80	99	70

表2 令和3年産いんげん(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量(北海道:種類別)

区分	作付面 積 (ha)	10a当 り収 量 (kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当 り 収 量	収穫量		10a 当 り 平 均 収 量 対 比 (%)	10a 当 り 平 均 収 量 (kg)
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)		
北海道	6,600	103	6,860	△220	97	151	2,180	147	58	177
うち金時	4,830	76	3,670	50	101	123	710	124	47	162
手亡	1,500	193	2,900	△280	84	247	1,510	209	83	233

注:「金時」には「きたロツソ」を含んでいない。

表3 小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区分	小豆			いんげん		
	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)
平成24年産	30,700	222	68,200	9,650	187	18,000
平成25年産	32,300	211	68,000	9,120	168	15,300
平成26年産	32,000	240	76,800	9,260	221	20,500
平成27年産	27,300	233	63,700	10,200	250	25,500
平成28年産	21,300	138	29,500	8,560	66	5,650
平成29年産	22,700	235	53,400	7,150	236	16,900
平成30年産	23,700	178	42,100	7,350	133	9,760
令和元年産	25,500	232	59,100	6,860	195	13,400
令和2年産	26,600	195	51,900	7,370	67	4,920
令和3年産(概数)	23,300	181	42,200	7,130	101	7,200

## 2. 令和4年産雑豆の作付指標面積(北海道)

### (1) 小豆

令和3年産小豆については、作付け面積が19,000haと前年産より減少したものの収量は平年をやや上回ったことから、安定供給可能な水準を確保することができた。しかしながら、輸入小豆から道産小豆への切り替えが進んで

いることや、新型コロナウイルスの影響により観光地を中心に減少した需要が少しずつ回復しつつあることを踏まえると、需要に対して安定的な供給を続けていくためには現状の19,000haでは不安があると考えられている。

こうした状況を踏まえて、JA北海道中央会等により令和4年産の作付指標面積は昨年と同様に22,100haと定められた。

## (2) いんげん等（菜豆等）

新型コロナウイルスの影響を受けていた大手亡の消費が回復傾向にあることや年産毎の作柄変動が大きい金時の安定供給体制の確立が必要であることなどを踏まえて、北海道産いんげん等（金時、手亡、えん豆等）の令和年産の作付指標面積は、昨年から36ha増の7,217haとされた。

表4 令和4年産雑豆の作付指標面積(北海道)単位: ha

区分		3年産実績面積	4年産作付指標	備考
雑豆	小豆	19,000	22,100	
	菜豆等	6,660	7,217	えん豆等を含む

\*3年産実績面積は、統計情報換算値